ギフチョウ

横枕から五箇山に向かい登ってくると十方台あたりから『ギフチョウ』を多く見かける。朝早くは沢の中、木陰で休んでおり、暖かくなって来るお昼近くから山の上に飛翔しペアを探します。大きさは３㎝～５㎝くらいで雪融けのこの時期しか見ることができない、ギフチョウが卵を産み付ける『カンアオイ』もこの付近ではあちこちで見つけることができます。カンアオイの葉を一枚づつ裏側を根気よく覗くと希にギフチョウの小さな卵（0.5㎜位）を見つけることができます。卵をよく見ると真珠のようにつるつるに輝く色合いです。

クロサンショウウオの卵？

この池には写真のような塊の卵が５ヶ所ありました。毎年のことながらすごい量だと思っています。

［卵は4-5週間で孵化し幼生になる。幼生は貪欲で小型の水生昆虫や甲殻類、ミミズ等を食べるが、しばしば共食いをする。

通常年内に変態し幼体になり、陸上生活を送るようになる。しかし幼生のまま越冬し翌年に変態する個体もいる。生態は山地にある森林に生息する。夜行性で昼間は石や落ち葉の下に隠れて休む。

食性は肉食性で昆虫類や節足動物、ミミズ等を食べる］

ウィキペディアより引用

コブシの花　雪が残っている中でマンサクの次に咲くのがこの『コブシ』です。南蛮峠の周りはこれが多い、春の雪が残っている中、木々が芽吹く前にこの白い花が遠くからよく目立つ、山地に自生する落葉性の樹木です。3月中旬頃に葉が出てくる前に6枚の花びらをもった大きくて白い花をたくさん咲かせます。花には芳香があり、満開時期の枝いっぱいに花を付けた様子は遠目からもよく目立ちます。こぶしの名前の由来はつぼみの形が握り拳に似ているからだとか、花後にできる果実が握り拳のようにぼこぼことした形をしているからだとか言われています。

五箇山の展望台でおにぎりを食べてのんびりと山を見ていると、姿は見つけられなかったが『ウグイス』が山に響く良い声で鳴いていた。

途中で山菜採りにハマり　ホーキント、あつきな、コゴメ、ゼンマイ、木の芽、ウド、モンジクサ、などが採れた。この時期だからこれだけの種類が取れたのです。山菜は成長しすぎると、上に書いた順番に旬が過ぎ、採ることができなくなります。

左の写真は伸びすぎた『コゴメ』と向こうに猿倉岳が見えています。このコゴメは収穫時期を１日過ぎてしまったようです。早春の山菜は成長が早く１日違うだけで、食用に適さなくなるのです。

ほーきんと 通信

竹之高地探訪記 №２６

２０１６年4月１０日号
発行：竹之高地町同友会
広報 hokinto 2016.03.01

早春の山歩き（横枕～五箇山～不動社）

2016/4/10　山歩き

横枕から五箇山に登り、おにぎりを食べて、途中『桜ロード』で満開の桜に見入り（右の写真は桜ロードの満開のソメイヨシノ）、春山の花を見て感動し、鳥、蝶を追いかけて、竹之高地不動社まで歩いてきた。距離は１０ｋｍ程、４時間弱の行程でした。

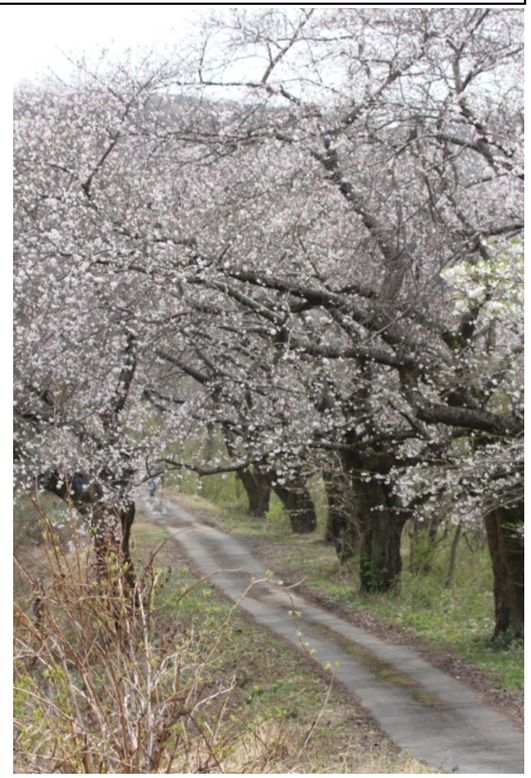
山道はいたるところに雪が残っており、車が通行できるのはもう少し先のようです。

雪がほとんどなくなったこの時期の山は歩きやすい、まだちょっと寒いくらいなので汗をかかない、毛虫がほとんどいない、ブヨ等の虫もいない、ヘビもまだ顔を出さない、雪があるので狭い山道で車が来ない、なんといっても早春の花が見れて、山菜が少量であるがいろいろなものが採れる。少ないといっても我が家の６人家族で食べても余るくらいの量は十分に採れる。

ただし、竹之高地で山菜の取れる量は年々減少しています。来年のために一株あたり３～５割を残さなければいけないのに・・・根こそぎ取られています。山菜は野菜と違い多年草です。一度なくなれば収穫できるようになるまで５年以上かかります。

竹之高地で生まれ育った人たちが久しぶりに古里に帰ってきて、一番の楽しみは春の山菜採りだと思います。またここで現在も活動している我々も雪融けのあとの山菜採りは待ちわびた楽しみなのです。

近隣の部落と同様に「山菜取り禁止」等の処置をしなければならないのかと皆で話し合っています。



五箇山へ釜沢街・横枕町方面から登ってくると桜並木があります。周辺の新緑の木々や山桜の美しい景色も楽しめます。ただし、桜の季節、五箇山へ上る道は残雪があり登れないこともあるのでくれぐれもご注意ください。

サシバ

左の写真は『サシバ』（タカの仲間）です。不動滝の脇の岩場にいました。

頭全長47cm（オス）、51cm（メス）。翼開長115cm。タカの仲間としては中型です。背面は赤褐色で、腹側には細かい横縞があります。全身黒褐色のタイプもいます。「ピックイー」とよく通る声で鳴きます。日本には夏鳥として渡来し、低山地、平地の林と農耕地の入り混じった環境に生息します。（日本の鳥百科より引用）

食べ物はカエル、トカゲ、ヘビなどだそうです。

竹之高地では雪解け頃より見られます。縄張りがあるみたいで、いつも単独でしか見られないようです。

ショウジョウバカマ　白花

常緑の宿根草です。山地の小川沿いや水分の多い傾斜地などに自生します。
左上の写真のように花は紅紫色の一重がポピュラーですが、変異が多くて濃淡に色幅があったり、白花や八重咲き種もあるそうです。
右上写真の白花は昨年もここで見ていますが、左の写真で今年はもう一株見つけ、計２株となりました。

オオバキスミレ

エンレイソウ

ネコノメソウ

イカリソウ

タチツボスミレ（?）　右上写真

日本では約60種が自生し、またその変種が数十種類と大変多いそうです。

スミレは地上茎がのびて葉が互性する有茎種（タチツボスミレやツボスミレなど）と地上茎が発達せず葉や花柄が根もとからでる無茎種（スミレなど）とに分けられているようです。

ナガハシスミレ（?）　右写真

竹之高地では、多分一番多く生えているスミレです。花色も濃い紫色から淡い赤紫、真っ白な「白雪ナガハシスミレ」という種まである。

キクザキイチゲ

竹之高地では『レンゲ』と呼んでいる。春一番に咲き、少しジメジメしたところに群生している。
白色、紫色、青色の花を一輪つける。キクに似た花を一輪つけることからこの名がついたとされる。

春先に花が咲き、広葉樹林の若葉がきれいになる頃には地上部は枯れてなくなり、翌春まで地中の地下茎で過ごすスプリング・エフェメラルの一種（カタクリと同じ）。